令和５年度

ふくしの作品　入選作品集

中学生の部　最優秀賞

「エコタウンつくろう」

中萩中学校　2年　藤原　優希菜

講評　新居浜文化協会

図柄に工夫が見られ配色もすばらしく印象的です。訴える力強い表現力があります。

たくさんのご応募
ありがとうございました

小学生の部　最優秀賞

「わたしたちにもできること」

大生院小学校　4年　松本　環菜

講評　新居浜文化協会

困っている人に手をさしのべる思いやりが伝わってきます。色づかいや文字が上手です。

高校生の部　最優秀賞

「支え合う社会が作る　笑顔の未来」

商業高校　3年　星川　勇那

講評　新居浜文化協会

支え合える社会をみんなで考えようとしています。レタリングや配色も素晴らしい。

中学生の部　最優秀賞

スポーツの輪

角野中学校　3年　　片山　暖人

　僕は今まで福祉について、あまり深く考えたことがありませんでした。中学校に入り総合の授業で福祉について考える時間がありました。福祉とは結局どういう事なのかと調べてみると「公的サービスにより、生活を良くすること」とありました。つまり、誰もが幸せに暮らせるようにするサービスなのだと思いました。

　中学3年になり、僕たちのクラスでは福祉とスポーツというタイトルで授業を進めていくことになりました。福祉とスポーツと聞いて最初に頭に思い浮かんだのは、パラリンピックでした。僕自身スポーツが好きで、特にサッカーが大好きです。パラリンピックと言えば、ボッチャや車椅子バスケットボールやテニス、車椅子マラソンなど様々な競技があります。僕の好きなサッカーは、ブラインドサッカーと言って、視覚障がいのある人がアイマスクをつけて5人制で行います。そのため周りの人からの声掛けやコミュニケーションがとても重要です。ブラインドサッカーの映像を見てみると、アイマスクをつけて視覚を遮断しているのにとても上手で、何よりサッカーを思いきり楽しんでいました。僕も体験してみたくなりました。このようにパラスポーツは、障がいのある人も無い人も一緒に楽しむことが出来るスポーツなのです。

　僕たちのクラスでは総合の授業で、車椅子バスケットボールを体験することになりました。まず初めにスポーツ用の車椅子の動かし方を学びましたが、思っていた以上に動かすのが難しかったです。タイヤが大きく外側に開いた車椅子を回転させたり、操作するだけでも大変なのに、ゴールを目指してボールを運んでいくのは至難のわざです。けれどこの体験を通して、僕は車椅子バスケットボールが好きになりました。難しいけれど、楽しかった！またやりたい！という気持ちでいっぱいになり、スポーツの持つ力は本当にすごい！と実感しました。障がいの程度や種類の異なる選手たちが同じコートで競い合うことが出来る魅力的なスポーツなのです。「色々な人たちが一緒に楽しめる」これがパラスポーツの素晴らしいところなのだと強く思いました。

　障がい者という言葉を聞けば、身体の不自由な方という認識だったのですが、身体が不自由なことが障がいではなく、階段や段差など周りにあるものこそが障がいになっているのだと気づかされました

　今回、この作文を書くことや総合の授業を通して、福祉についてじっくり考えることができました。福祉問題は特殊な人たちに生じる特別な問題ではありません。まずは正しく知ること、そして自分に出来ることを積極的に探していきたいと思います。誰もが幸せで居られる社会を目指して。

中学生の部　優秀賞

福祉から考えること

中萩中学校　3年　大西　生流

　「福祉」とは何かと考えた時、高齢者が通うデイサービスが思い浮かんだ。

　僕のひいばあちゃんはもう100歳になる。認知症で要介護は4。知的障がい者である叔父と2人で暮らしている。最近は、ずっと家のベッドで寝ていることが多い。ひいばあちゃんは、デイサービスには入っていない。ヘルパーや訪問看護師、ケアマネジャー、往診の医師が家に来て支えている。

　支援してくれる人が来た時と家族が来た時に言うことは違う。家族の方が本音を言いやすいのだなと感じる。

　福祉についての体制や制度が整い、介護者が安心して過ごせて、高齢者が安全に過ごす場所は増えていると思う。しかし、その人が長い人生をどのように過ごし生きてきて、どのように残りの人生を過ごしたいのか、そのことについてしっかり耳を傾けられているのか、それぞれが自分自身の人生を決められることは大切だと思う。支援する人が「普通はこうしている」とか「皆さんはこうしている」とか皆が良いと言っていることは、うちのひいばあちゃんにとっては良いことではなかった。

　その人たちがどうしたいのかを聞くことは大切だと思った。僕の父にとっては祖母、母にとっては夫の祖母になるが、父と母はその人のことを大切にしていると思う。

　ひいばあちゃんは元気な時も家から外出することは少なかった。そして、何よりいつも知的障がいのある叔父のことを心配していて大切にしていたそうだ。

　ひいばあちゃんの介護生活が始まった時、初めはデイサービスに行ってもらって介護者が安心することを一番に考えていた。でも、介護生活が長くなり、デイサービスでのひいばあちゃんの様子を見ているうちに、今のひいばあちゃんの生活を少しずつ変化させている。それはとても大きな決断だと思う。ケアマネジャーや在宅医にもたくさん話して決めたそうだ。ひいばあちゃんは認知症で、選択はできないかもしれないけれど、いつも「病院は行きたくない」、「家が良い」と言っている。僕は、それを信じたい。

　「福祉」という言葉を使わなくても、その人の「幸せ」について周りの人が自然に考えて関われる生活になれれば良いなと思う。

中学生の部　佳作

『思いやり』とは何なのか

中萩中学校　3年　大岡　奏恵

「思いやりの心を大切にしましょう。」みんな一度は言われたことのある言葉ではないだろうか。思いやりとは、その人の立場になって考えてあげる気持ちのことだ。生きていく上で相手を思いやるということはとても大事なことだと思う。しかし本当にそれだけでいいのか、そんなことを考えさせられる出来事があった。

数年前、家族旅行に行ったとき、母と私で電車に乗っていた。休日のお昼時で駅や電車の中には人が密集しており歩くだけでも大変だった。なんとか電車に乗りこみ、空いている席を見つけ母と座った。すると、次の駅でおじいさんが乗り込んできた。もう座るところどころか、立っている場所すらないほど混雑した都会の電車内で、おじいさんはしんどそうにしていた。私は席を譲るべきか迷いながら、空いている席が無いか見つけるため電車内を見渡していた。すると、優先席に座っている若そうな男の人が目に入った。その人は耳にヘッドホンをつけスマホをいじっており、おじいさんには全く気がついていない様子だった。私は、「なんであの人は席を譲らないんだろう。優先席に座っているんだから、早く譲ればいいのに。」と思っていたが、その人が譲る気配は全くなかった。すると結局普通の席に座っていた会社員のような人が「ここ、空いていますよ。」と自分が座っていた席をおじいさんに譲った。席を譲られたおじいさんはとても嬉しそうに「ありがとうございます。」と言って席に座った。それを見て私は、席を譲った人はすごいなと思うのと同時に、なぜ私は席を譲らなかったのだろうと思った。私は優先席に座っていなかったからだろうか。優先席に座っていても譲らない人を見つけたからだろうか。そんなことを考えていたが、答えはもっと簡単だった。私に勇気がなかったからだ。私は頭では分かっていても行動に移すことができなかった。それに気づいた私は自分だって席を譲らなかったのだから、優先席に座っていながら席を譲らなかった人と何も変わらないじゃないかと、とても情けない気持ちになった。

この出来事から私は、思いやる気持ちだけでなく、行動に移すことが大切だということを学んだ。行動に移すことはとても勇気のいることだし、簡単なことではないと思う。それでも、みんなが少しずつ勇気を出し、自分じゃない他の誰かのために行動できたのなら、そこにはきっと笑顔あふれる未来が待っているのではないだろうか。そんな未来が来ると信じて、今日も私は少しだけ勇気を出す。

ふくしの作品　作文講評

講評　「思いを行動に」

社協支部連絡協議会　会長　神野　洋行

「行動する」ことの大切さを主張した作品が受賞作となりました。調べて考えて、そして行動し、さらにそれを振り返り、次の行動をつなげていく。そのサイクルが希望のある未来につながっていくのだと、改めて感じさせられた作品群でした。

「スポーツの輪」では、車いすバスケットボールを通して、パラスポーツの持つ素晴らしさを体験し、「障がい」は当事者の障がいによるものではなく、社会的な環境に起因しているという気づきに至ったことは、大きな学習成果だと思います。

「福祉から考えること」では、支援されている人が何を望んでいるのかを支援者が尊重することの重要性や、その「本人の幸せ」がかなえられるよう自然に関われる環境づくりを望む思いが伝わりました。

「『思いやり』とは何なのか」では、電車内での座席をめぐる体験をもとに、気持ちを行動につなげる勇気について書き込まれた作品でした。

いずれの作品にも、拍手。

【選考委員】

社協支部連絡協議会	会長　神野　洋行	民生児童委員協議会	会長　白石　敦之
福祉施設協議会	会長　伊藤　剛弘	社会福祉協議会	会長　小野　正師

今回応募いただいた121点の作文のパソコン入力を8名のボランティアの方にご協力いただきました。誠にありがとうございました。
全応募作品は新居浜市ボランティア・市民活動センターのホームページで公開しています。
ぜひご覧ください。

発刊にあたり

新居浜市社会福祉協議会　　**会長　小野　正師**

どの作品にも、小中高生らしい柔軟で鋭敏な感性が活かされ、優しく心温かい思いやり溢れる素敵なものばかりが集まりました。百数十点の応募作品の中から、選別することは困難を極めましたが、ご応募いただいた皆さまには心からの感謝と御礼を申し上げます。

さて、地域福祉の現状を見ていると、地域社会は見ず知らずの誰かが温かく声を掛け、静かに見守り、さり気なく支えてくれていることで成り立っていることに気づきます。人にはそれぞれの生活があり、自分のことで精一杯であったとしても、隣に困っている人がいればそっと援助の手を差し伸べてくれます。

誰かのために役立ちたいと思う若者が増え、小さな喜びや幸せが一人ひとりに積み上がって行き、この地域が益々心豊かになることを願っています。

ポスター講評

【選考委員】

新居浜文化協会
篠原 雅士　合田 定子
永易 和夫　松本 光久

小学生から高校生の皆さんの作品は、それぞれ一生懸命考えられ制作された秀作ばかりでした。みんなが笑顔になれる暮らしやすい社会をめざすため、自分にできることを考え、行動していこうという気持ちがポスターから感じられ心があたたかくなりました。

中学生の部　優秀賞　「その手には希望がある」　泉川中学校　3年　田中　来幸

講評　新居浜文化協会　手でハートマークを作るアイデアが効果的です。人とのつながりにも温もりと夢が感じられます。

中学生の部　佳作
「笑顔をつくる　福祉の心」
角野中学校　3年　森本　莉香

高校生の部　佳作
「知ろうとすれば、見えてくる。」
商業高校　1年　渡邊　愛華

小学生の部　佳作
「知ってほしいマークたち」
金子小学校　5年　丸野　正樹

中学生の部　佳作
「笑顔の輪を広げよう」
中萩中学校　1年　二神　結菜

令和5年度　ふくしの作品　入選作品集
社会福祉法人　新居浜市社会福祉協議会　　新居浜市ボランティア・市民活動センター
〒792-0031　新居浜市高木町2番60号　　TEL/FAX（0897)65-1009

ふくしの作品は学校の夏休み期間に募集します。来年もご応募をお待ちしています。

～この事業は「赤い羽根の共同募金」の配分金により行っています～

ボランティアのことなら
新居浜ボラセンに
お任せください！

ボラセン HP

新居浜　ボラセン